

第 1 回「ポケモンGO」などスマホの進化が
地域社会・地域経済に与える影響に関する有識者会議
議事要旨 抜粋

日時：平成 28 年 9 月 15 日 場所：三宮研修センター 5 階

■有識者会議開催趣旨について <久元市長>

- ・(スマホの進化が)ビジネスの世界、科学技術の進展のみならず、行政の分野においても、この進展というものを生かして、行政サービスをさらに高度化させ、進化させ、効率化を図るといような可能性を秘めている。また、民間事業者や N P O の皆さんが色々な地域の諸課題を解決する上でも、非常に大きなツールとなる可能性があるのではないかと考えている。
- ・スマホに対する過度の耽溺が、子どもを初めとした人間の成長過程にどのような影響を与えるのか等、スマホのネガティブな影響についての研究もかなりたくさんある。
- ・光の部分と影の部分の両方を合わせ持っているこの問題に対して、我々行政、あるいは地域社会は、どのように対応していくべきかについて、大所高所から、あるいは専門的なお立場から御指導、御助言、御示唆をいただきたい

■ポケモンGOがもたらしている社会現象について

<㈱NTTドコモ R&D イノベーション本部 田居氏>

■庁内プロジェクトチームでの取り組み状況について <事務局>

■有識者会議の今後の議論の進め方について <事務局>

■今後の進め方の詳細について 委員からのご意見

○井上委員

- ・子育ての分野でのスマホは、問題・課題と共に良い点もあると思う。
- ・教育の中でも、指導という切り口、養護教諭という切り口、保護者への教育、或いは家での親子関係という切り口など、多方面から、今子供たちが抱えている課題、問題を一緒に解決していこうとしたり、子供たちが成長と共に、自分でそれを考えてコントロールしていく力をつけようといった取組みを進めている。
- ・子供たちの思い、保護者の思い、それから学校の先生方の思いを重ねながら、提案していけたらと考えている。

○塚本委員

- ・実世界と完全にマッチしたような架空の空間が我々の身の回りであって、それがうまく機能するという新たな環境を構築していくというのが、これから 5 年、10 年の人類の歴史になるというふうに考えている。
- ・ポケモンGOの延長上には今知られている集客効果のみならず、色々なサービスに応用できるポテンシャルがあるということが言えると思う。
- ・今後の実世界にリンクする仮想世界をどのように設計していくかといくことを考えていくということだと思う。
- ・今回のポケモンGOに象徴されるこの大きな流れは、単にこの1つのゲームの問題ではなくて、今後のこのコンピュータと人類のあり方に関する課題だという風に捉えるべきだと思っている。

- ・一概に歩きスマホを禁止することには反対したい。一概に禁止してしまうと、新しいサイバーフィジカルの空間を創っていくところを止めてしまい、その先の新たな世界での正しい使い方を全て創れなくしてしまうのではないか
- ・特に、神戸なので、この新しい文化、産業、そういうものを神戸から発信していくというために、この大きな産業と生活文化の発展というものを支えていく方向で考えていただければと思う。

○橋本委員

- ・ポケモンGOなり、多様なデバイスを、どう使っていくかということに関して、こういう機会が持てるということは素晴らしいことだと思う。

○三原委員

- ・そのポケモンGOだけに対処するようなこと考えていては、もぐら叩きになってしまうと思うので、もう少し根本的に、子供たちがその頭を使って、そのネットのサービスに利用されるのではなく、利用できるように育てていくということを考えていく必要があるのではないかなと思う。
- ・韓国、中国などでは、ネット依存の期間が長くなると、それだけ脳内の感情をつかさどる細胞が死滅してしまうというような研究も出始めているところである。
- ・海外においては、教育関係者、IT関係者、医療の関係者などのネットの光の面と影の面の両方の方たちが一緒になって学会を開くようなことも行われている。
- ・ネット依存に関してはまだまだ判っていないことが多いが、スマホフロンティアである我々大人が、その光と影の両面に目をつぶることなく、考えて、提言していくことが、スマホネイティブの子供たちを育てていくこととなるのではないかなと考えている。

○横山委員

- ・ポケモンGOにしろ、LINEにしろ、ネットワークのアプリケーションサービスは氷山のあくまで一角であって、ネットワーキングとコンピューティングの融合が水面下にある。事例主義的にこの水上に出てきている部分に対して右往左往するのではなく、水面下のインフラに目を向ける必要がある。
- ・日本の場合、技術的、社会的な蓄積が無いまま終わってしまう危惧がある。
- ・市としての視点と、広い目を見たときの今後の技術の視点の2つを考えつつ、「ネットワーキング」、「コンピューティング」及びカメラやセンサーなどの「センシング」の3つを誰がどう提供していくかを考えられればと思う。
- ・教育という切り口でいうと、インターネットの世界の面白い部分は、創って試すことが文化として受け入れられている
- ・もっと教育の機会やテーマとして考えてもいいなとも思っている。
- ・保護主義的にやらずに、「神戸でコンピューティングも用意したから、ここで色々試してイノベーションを起こそう」といった具合に地産地消でITをやっていかなければいけない時代なのかなと思う。

○品田委員

- ・ICTの問題を考えるときは、社会との関わり、文明史的な視点、技術的な視点など、文理融合の視点が必要であり重要である。
- ・ICTの更なる進展を考えていくときには、同時に社会のコンセンサスの熟成が必要である。